

再びスズメの鳴き声を

岡谷の中島さん

生息環境守る取り組み

境、天竜川に注ぐ沢の水場があり、シンコースポーツと所有者の市に巣箱設置の協力を依頼した。中島さんがカラスやヘビといった天敵の被害に遭いにくい場所を選び、社員3人とともに取り付けた。「スズメに代わってありがたい」と感謝したとつとつ言いたい」と感謝した

中島さん。「スズメが子育てしやすい環境は、人間にとってもいい環境」とし、「配布できるスズメ用巣箱もあと少しある。子育て支援の輪を広げていきたい」と話した。問い合わせはショートメールで中島さん（電話090・4464・3356）へ。

里に再びチュンチュンの鳴き声を――。岡谷市川岸西の高校教員中島弘美さんが、全国的に減っているスズメの生息環境を守る活動に取り組んでいる。15日には市内運動施設の指定管理者・シンコースポーツの協力を得て、川岸スポーツ広場の一角にスズメ用巣箱を二つ掛けた。「私の住む地区も姿を消した。スズメの子育て支援の輪を広げ、激減を食い止めたい」と中島さん。巣箱の設置や植樹など活動の協力者を募っている。

（鮎沢健吾）



川岸スポーツ広場にスズメ用の巣箱を設置する中島弘美さん⑤とシンコースポーツ社員

告げる鳴き声にぎやかに聞こえてきたというが、2021年ごろから姿を見掛けなくなり「いまは沈黙の春」。自身が行った目視調査や、住民への聞き取り調査でも目撃はほぼなかったという。

繁殖の一助になればこの思いから始めたのが「スズメの子育て支援」

川岸スポーツ広場に巣箱設置

環境省などのモニタリング調査では、この20年間で身近な鳥の減少が顕著となっており、人家近くで生息するスズメは年3・6%のペースで減少。隙間の少ない高気密住宅が主流になったことによつて

営巣場所が減ったほか、餌を探せる緑地の減少、気候変動の影響が指摘されている。

北海道出身で、結婚を機に岡谷市川岸の夏明地区で暮らし始めた中島さん。スズメが飛び回り、雪解けを境に朝を

だ。スズメ用の巣箱を購入し、適地に設置してくれる家庭を新聞の告知板で募集。市内外の12人から申し出があり、計14個の巣箱を無償で届けた。川岸スポーツ広場には身を隠せる樹木、虫が生息する環